

音楽表現技術の学び（Ⅱ）

—音楽劇の創作活動—

久世 安俊

Learn of musical expression skills（Ⅱ）

—Creative activities of music theater—

Yasutoshi Kuse

Abstract

Following the research of the Bulletin of the University Research Bulletin No. 46 (2016), we learn what students learn and how to express musical expressions in nursery through activities of " Dramatically play " that was tackled in the latter stage of "music (vocal music)" Pay attention to.

Key words : Musical expression skills, creative activities, music theater,

はじめに

本学研究紀要第46号(2016)の研究に引き続き、「音楽(声楽)」の後期に取り組んだ音楽劇の創作活動を通して、学生が何を学び、保育における音楽表現をどのように捉えているのか注目する。

活動方法

1カ間での活動としている。1クラスを4グループに分け(1グループ:8人~9人)グループワークとした。テーマは自由で、子どもの歌を主とした10分程度の音楽劇を作成し発表を行う。告知当日も含め3週の授業を準備・練習回とし、4週目に発表を行う。発表は動画に収め、5週目に鑑賞を踏まえディスカッションを行った。

各グループ、テーマ、ねらいなど創作劇の概要を記した企画書の提出をしてもらった。発表当日は他のグループを観ての感想と発表の成果を筆記してもらい、動画の鑑賞時には、

各グループから集約した感想と企画書を資料とし、自身のグループの発表を俯瞰してもらった。

質問紙

・調査対象

平成 28 年度後期を受講した保育科 1 年生 65 名を対象に行った。

・調査実施日

「音楽（声楽）」の授業時間内

1. 発表当日の感想：平成 28 年 11 月 28 日 3 限目と 5 限目に実施。
2. 発表動画の鑑賞後：平成 28 年 12 月 5 日 3 限目と 5 限目に実施。

・調査項目

- 1-1. あなたの担当（役柄）を教えてください。
また、そこを務めるにあたって考慮したこと、工夫したことを教えてください。
- 1-2. 成果は発揮できましたか。
- 2-1. 自身の発表を見てどうでしたか。良かった点、気になった点を挙げてください。
- 2-2. 音楽劇の取り組みについて。満足ですか、不満足ですか。
- 2-3. 今回の取り組みで学んだことを教えてください。

企画内容

A-1	9人グループ
テーマ	アリとキリギリス ～働かざるもの食うべからず～
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ➤ アリを見て、しっかり働くという大切さを知る。 ➤ キリギリスを見て、さぼったら後悔するという事を知る。
物語・構成	「アリとキリギリス」の物語をベースとし、アリとキリギリスの心の中を天使とあくまで表現することにより、子どもにも分かりやすくしている。
登場人物	アリ キリギリス 天使・悪魔 ナレーター ピアノ
使用曲	<ul style="list-style-type: none"> ・おつかいありさん ・アリは今日も働いている ・海 ・手をたたきましょう ・虫の声 ・おなかのへるうた ・ふしぎなポケット ・にんげんっていいな

A-2	8人グループ
テーマ	森のくまさん
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 鑑賞することを楽しむ。 ➤ 静かに観るという臨場感や雰囲気を楽しむ。 ➤ 友だちの気持ちを考え、思いやりを持つ。

物語・構成	森のクマさんを軸としたストーリー。
登場人物	女の子　くま (森の動物) リス　うさぎ　ことり　たぬき ナレーター　ピアノ
使用曲	・さんぽ　・森のくまさん　・山の音楽家

A-3	8人グループ
テーマ	野菜 SISTER' S
ねらい	➤ 野菜嫌いをなくすため。
物語・構成	野菜嫌いの姫がいる。そこで、野菜たちが姫にどうにかして野菜を食べさせようと作戦会議をする。姫の夢に野菜たちが出てきて、起きた朝には野菜を食べられるようになった。
登場人物	姫　トマト　ニンジン　ピーマン　ダイコン　ナス 執事　ナレーター　ピアノ
使用曲	・おねむりのうた　・おなががへるうた　・野菜シスターズ

A-4	8人グループ
テーマ	健康
ねらい	➤ 手洗い、歯磨きの大切さを伝える。
物語・構成	子どもたちが外から帰ってきて、手を洗わずに食事をしようとするとバイキンが登場。そこにバイキンを倒すヒーローが現れ戦う。 子どもたちは手を洗い、おにぎりやアイスを食べるが、歯を磨かずに遊びに行く。再び、バイキンの登場。ヒーローが現れ戦う。
登場人物	ヒーロー (3人)　バイキン (3人)　子ども (2人) ピアノ
使用曲	・歯をみがきましょう　・アイスクリームのうた　・おべんとう ・虫歯建設株式会社　・おててをあらいましょう

B-1	8人グループ
テーマ	おおかみと4ひきのヤギ
ねらい	➤ 悪いことをすると、自分に返ってくるということを知る。
物語・構成	「オオカミと7匹の子ヤギ」を基本に。
登場人物	おおかみ　ママヤギ　ヤギ (4人) ナレーター　ピアノ
使用曲	・山の音楽家　・やぎさんゆうびん　・かもめかもめ ・かもつ列車　・おねむりのうた

B-2	8人グループ
テーマ	つながり
ねらい	➤ 仲間の大切さを知る。
物語・構成	ある一羽の小鳥の夢は演奏会を開くこと。しかし仲がない小鳥はどうするのでしょうか？たくさんの仲間が集まり、無事に演奏会が開けますように！
登場人物	小鳥 ライオン くま パンダ キリン リス うさぎ ナレーター ピアノ
使用曲	・ともだちになるために ・森のくまさん ・歌えバンバン

B-3	8人グループ
テーマ	協力
ねらい	➤ 想像力を豊かにするとともに、協力する大切さを学ぶ。
物語・構成	なぞのヒモを発見。みんなでそれが何かを考える（予想したものの歌） いものつらだとわかる。みんなで一緒に引っ張る。
登場人物	子ども A・B・C・D・E 先生 黒子&ナレーター ピアノ
使用曲	・アイアイ ・ふうせん ・大きなくりの木の下で ・きらきらぼし ・いもほり ・やきいもグーチーパー

B-4	8人グループ
テーマ	Merry Christmas
ねらい	➤ 季節を理解し、X'mas を楽しむ。
物語・構成	12月25日はクリスマス。ペことりゅうちえるにサンタがプレゼントを届けに行きます。さて、無事に届けることができるのでしょうか？
登場人物	サンタ トナカイ ツリー りゅうちえる ペこ ナレーター ピアノ
使用曲	・あわてんぼうのサンタクロース ・ジングルベル ・赤鼻のトナカイ ・クリスマスイヴ ・We wish you a merry christmas

8グループ中、3グループが既存の作品をベースとした物語構成をとっている（A-1「アリとキリギリス」、A-2「森のくまさん」、B-1「オオカミと4ひきのヤギ」）。内、B-1はメンバーの数を当て嵌めただけで、オリジナルのままを演じるに過ぎなかった。A-1は天使と悪魔を登場させ、しかも一人二役で善と悪を表現し面白く印象付けしていた。A-2はイヤリングを渡してくれたクマさんに女の子がお礼として、山の動物たちと歌を歌うという設定にし、「山の音楽家」を選曲していた。他のグループはオリジナルの物語を作り、とても工

夫がなされていた。A-1 と A-3 グループは表紙付きの台本を作る気の入りようであった。

結果と考察

1-1. あなたの担当（役柄）を教えてください。そこでの考慮・工夫。

役になりきるという意見が多かった。その術として、声のトーンや、テンション、動物や野菜においてはお面を付けたり、衣裳を付けたりの工夫をしてくれていた。また 7 グループがナレーターを設けており、進行を分かりやすく伝える配慮がなされていた。担当学生も観てる側を巻き込むような話しぶりに気を付けたと答えている。対象への配慮がうかがえる。

1-2. 成果は発揮できましたか？

	発揮できた	発揮できなかった	両方
A-1	5人	3人	1人
A-2	1人	7人	0人
A-3	5人	3人	0人
A-4	2人	1人	4人
B-1	0人	7人	0人
B-2	8人	0人	0人
B-3	1人	7人	0人
B-4	6人	0人	2人
	28人 (44%)	28人 (44%)	7人 (12%)

*A-4は発表当日1人欠席。B-1は感想用紙未提出1人。

〈発揮できた〉の回答が多いグループ (A-1、A-3、B-2、B-4) は「協力できた」「しっかり練習ができた」「練習以上の出来だった」という理由である。このグループでの〈発揮できなかった〉の回答者は技術的な理由で「緊張で声が小さかった」「台詞を忘れた・間違えた」としている。A-4〈両方〉については、反省点がありながらも、楽しむことができた」と回答している。〈発揮できなかった〉の回答が多い A-2、B-1、と B-3 についてだが、A-2 と B-1 は 1 人の発揮できた学生以外、すべてに「練習不足」としている。感想用紙の未提出者も該当し、毎週誰かが欠けるという状況では良い発表は望めない。A-2 に関しては、動画鑑賞当日に 8 人中 6 人が欠席するという残念な結果であった。B-3 については、とても良く出来たストーリーで、休日練習も行ってたグループではあったが、「声の小ささ」「目線」「台詞の間」「もっとクオリティーが」という評価を付けていた。真摯に取り組むが故の厳しさと考え、好感が持てる。

2-1. 自身の発表を見てどうでしたか。

A-2 と B-1 以外で「楽しく出来た」「達成感」という意見が〈良かった点〉として挙がっている。〈気になる点〉としては、「台詞が聞こえない」「ピアノとのバランス」「歌・ダンスが揃っていない」「間が悪い」「表情が硬い」「小道具が効果的ではない」とテクニック面

での意見が大半であった。本番直後の感想では発揮できたとしていても、客観的に観てみると、思っていたのとは異なり、うまく伝えきれていないということを感じたのだと考える。

2-2. 音楽劇の取り組みについて。満足ですか、不満足ですか。

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満足	不満足
A-1	8人	1人	0人	0人
A-2	0人	1人	0人	1人
A-3	3人	3人	0人	1人
A-4	4人	4人	0人	0人
B-1	0人	0人	3人	4人
B-2	3人	5人	0人	0人
B-3	2人	6人	0人	0人
B-4	3人	5人	0人	0人
	23人 (40%)	25人 (44%)	3人 (5%)	6人 (11%)

*鑑賞当日 A-2 は 6 人、A-3 が 1 人、B-1 が 1 人欠席。

やはり A-2 と B-1 以外で〈満足・どちらかといえば満足〉の回答である。特記として「子どもたちで取り組ませることを考えると大変だろう」という意見があった。筆者自身も現場での指導法という観点から同意見である。劇あそび、オペレッタの活動から、どの程度の指導技術が習得できるのか、深く追及する必要性を感じている。

もう一点、B-1 メンバーの意見で「グループの組み方の検討」とし、ちゃんとやりたいのだが、そういう雰囲気ではなかったという旨が記してあった。グループ分けは学生たち自身に任せている。作業リスクも考慮し、グループの人数は均等割りでという指示を出していた。環境リスクが重要という事だろう。まさに仲間関係、対人関係からの結果といえる。今後の課題としたい。

2-3. 今回の取り組みで学んだことを教えてください。

A-1	<ul style="list-style-type: none"> ・練習、下準備の大切さ。 ・協力すること。 ・達成感 ・子どもの視野 ・苦手な人前に出ることが少しではあるが克服できていると感じる。
A-2	<ul style="list-style-type: none"> ・構成、選曲、道具などたくさん考えることがある。 ・限られた時間での準備、時間の使い方。 ・練習、下準備の大切さ。
A-3	<ul style="list-style-type: none"> ・練習は大切。 ・恥ずかしがる暇はない。

	<ul style="list-style-type: none"> ・小道具づくり。保育士になっても役に立つ。 ・アイデアと小道具で完成度が変わる。 ・演じることの楽しさ。 ・複数人で一つのことをやり遂げることの難しさ、保育現場でも活かせる経験だった。 ・人前に立つための準備、時間、伝える工夫。
A-4	<ul style="list-style-type: none"> ・本気で取り組むこと。中途半端ではやる側・見る側と楽しくない。 ・協力すること。 ・伝えることの難しさ。 ・やる側のつもりと見る側の受け取りの違い。 ・自信が持てるだけの練習が大切。 ・意見を出し合うこと。 ・声をしっかり届ける。
B-1	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が責任をもって。 ・<u>他人任せにしたこと。</u> ・全体として考える。 ・<u>最初が肝心、みんなで協力して取り組む。</u> ・後悔先に立たず。 ・授業に来ていない人で練習ができなくて、何かできることを探す。他のグループからの刺激は大きかった。
B-2	<ul style="list-style-type: none"> ・演じる側と受け取り側の違い、いろんな視点が必要。 ・衣裳、道具で印象が違う。 ・他のグループの表現の違い、盗めた。 ・時間をかけた分、いいものができる。 ・声の印象。 ・練習と本番での空気の違い。 ・まとまる。 ・一生懸命。
B-3	<ul style="list-style-type: none"> ・念入りな打合せ。 ・時間の使い方・計画。 ・協力。 ・練習、準備。 ・発表と評価、自己評価することで反省と改善ができた。 ・スケジュールリング。
B-4	<ul style="list-style-type: none"> ・協力。 ・練習の組み方。 ・計画の立て方。 ・練習の大切さ。 ・創作劇の魅力。

- | | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none">・練習をしっかりと。手を抜くと、すぐバレる。・創作する、発想力。 |
|--|---|

おわりにー今後の展望

今回、本学研究紀要第46号(2016)に続き、「音楽(声楽)」の劇あそびの取り組みにおいて、学生たちが何を学び、どういう意識を持って取り組んでいるのかを見ていった。前期の子どもの歌の斉唱やお互いに支え合いながらの演奏発表とは異なり、2-3.〈音楽劇の取り組みから学んだこと〉に挙げられた意見からも、グループワークの難しさを痛感したものとする。しかし各グループ、概ね、アイデアに富む構成と、それに沿って発揮された各々の才能とが結びつき、とても楽しく、充実した取り組みが出来たものとする。今後の学業、活動に活かしてもらいたいものである。

これからの問題点も得ることができた。グループ編制である。「他人任せにしない」「最初が肝心」というように、やる気の失せない環境づくりが大切ということだと考える。改善策を検討する所存である。

さて、この調査の対象メンバーが本年度(平成29年度)2年生となり、総合発表会でのオペレッタ発表を進めている。1年次での「劇あそび」の学びがどの程度活かされ、どれほどのクオリティーを持った作品を作り上げるか非常に期待している。発表までのプロセス、取り組みでの学び、就職先での活用と、引き続き調べていく所存である。